

令和6年度防府市総合教育会議議事録

1 開催日時 令和7年1月14日(火曜日) 午後1時30分

2 開催場所 防府市文化センター(防府市役所本館8階)

3 出席者

防府市長		池田豊
防府市教育委員会	教育長	江山稔
	委員	村田敦
	委員	田村純子
	委員	温水祥代
	委員	古閑謙士

4 会議に参加した者

学校教育課長	荒瀬淳子
学校教育課主幹	中村武司
学校教育課主幹	山本健作
学校教育課指導主事	中村慎一郎
学校教育課指導主事	上利知孝
学校教育課指導主事	五十部大暁
地域振興課長	西野紀子

5 会議に従事した職員

教育部長	高橋光男
教育部次長	岡田元子
教育総務課長	松田伸一
教育総務課長補佐	岸野恵美

午後1時30分 開会

○教育部長 皆様、大変お待たせいたしました。

定刻になりましたので、ただいまから令和6年度防府市総合教育会議を開会いたします。

本日は、お忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。私は、本日の進行を務めさせていただきます教育部長の高橋でございます。よろしく願いいたします。

初めに、防府市長より御挨拶を申し上げます。

○市長 皆さんこんにちは。一昨日は二十歳のつどいに御参加いただきまして本当にありがとうございます。

今日、この会場になりますけれども、ようやく市役所の新庁舎が完成しました。僕は小学

校3年生のときに、市長になりたい人と聞かれて手を挙げたのは私1人でした。小学校6年生のときの僕の日記には、将来、城を建てたい、それが無理なら城のような色の家を建てたいと書いていて、このたび新たに市庁舎ができて大変うれしく思っています。

去年はプリズムストリートや野球場、また競輪場ですね。子どもたちの遊び場ということで、子どもたちにとっても、いろいろな面で防府のまちが前に進んだのではないかと思っております。また、元旦には、天満宮に千羽鶴が舞ったということで、学問の面でも前に進んでいるのではないかと思っております。

そうした中、僕は子どもは平等ということで、教育の分野でも、エアコンの整備を同時にしましたけれども、トイレの洋式化も一斉にして、来年度には中学校まで全部洋式化にするようにしています。また、インクルーシブ遊具についても、17か所同時に整備させていただいて、林野庁長官賞もいただきましたけれども、よかったと思っております。

今、国では地方創生ということが叫ばれていますけれども、各地域の地方創生の中心となるのは、私はやっぱり学校だと思っております。至るところで学校が廃校になると、その地域は疲弊するとか、さらに過疎化が進むことになるので、私は全ての学校を残す、公民館も残すということを基本方針にして、地域がしっかりと元気になってもらいたいということいろいろ進めております。

そうした中で、今日は、総合教育会議の議題として、「もっと行きたくなる学校を目指して」というタイトルにさせていただいております。

それぞれの学校が小規模校でも特色のある教育で頑張っていますので、それらの学校に、もっともっと行くためにはどうしたらいいか、各地域の地方創生ですね、各地域、各地区が頑張ることがまた地方創生だと思っております。そうした中で、大きく教育を中心に、前向きに、防府のまちを元気にしていきたいと思っておりますので、今日は忌憚のない御意見をいただき、またそれを参考にこれからの施策を進めていきたいと思っております。どうかよろしく願いいたします。

○**教育部長** ありがとうございます。

それでは、本日の議題に入ります。

議長につきましては、防府市総合教育会議設置要綱第4条第1項の規定に基づき、市長にお願いいたします。

○**市長** それでは、もっと行きたくなる学校を目指してという、ちょっと面白いタイトルが議題となりますけれども、これで進めさせていただきたいと思えます。

事務局のほうから、説明をお願いいたします。

○**学校教育課長** こんにちは。学校教育課の荒瀬でございます。

本日の総合教育会議のテーマである「もっと行きたくなる学校を目指して」について御説明いたします。

防府市は、教育のまち日本一を目指して、学校を核とした地域づくりと、地域とともにある学校づくりを推進しております。そのための仕組みの一つが、地域まるごと学校防府モデルです。各中学校区に、小学校と中学校、そして地域コミュニティーの中心である公民館が連携する地域協育ネットがつくられており、地域全体で15歳の目指す姿を共有しております。

こちらは「右玉子ネット」でございます。玉祖小学校と右田小学校、右田中学校、そして

右田公民館で構成されております。こうした地域まるごと学校防府モデルは、防府市がもっているすばらしいシステムです。このような地域のあたたかな支えの中で、子どもたちが通いたくなる学校、地域の方も保護者の方も元気になれる学校、そして教職員も誇りをもって働ける学校を目指しております。

今回は、防府市の施策である3つの特認校、富海小・中学校、向島小学校、野島小・中学校を紹介いたします。特認校とは、防府市内全域から通学できる学校をいいます。本日は、これら3校について、もっと行きたくなる学校にするための工夫について、御意見をいただければと思っております。

まず、富海小・中学校について御紹介いたします。

富海小・中学校は、市内で唯一の小中一貫校です。きめ細やかな指導と集団での学び合い、また、外国語を通したコミュニケーション能力の育成を目指して、平成27年度から特認校制度をスタートさせました。対象は、防府市在住の小学校1年生から中学校2年生まででございます。ちなみに、右下にあるのは、マスコットキャラクターの「とのみん」です。

こちらは、在籍人数の推移です。青色は、富海小・中学校区の児童生徒数で、オレンジ色は、特認校制度を利用した児童生徒数です。富海小・中学校は、小学校1年生から外国語活動を導入した教育課程を編成しております。そのため、原則として、中学校の卒業まで継続して富海小・中学校に在籍いたします。10年目を迎えた今年は、29名の児童生徒が制度を利用しております。10年間で、特認校制度を利用した児童生徒数は、延べ183名となっております。

富海小・中学校は、小中一貫教育校ですので、日常的にも小中学生の交流の場があります。その一部を御紹介いたします。

本年度は、生徒会役員が企画した小中合同全校集会で、レクリエーション活動を行いました。小学生も楽しく活動できるような様々な工夫をし、全校児童生徒の笑顔があふれる充実した時間となりました。

そのほか、宿泊学習、藍染め体験、富海総合運動会、文化祭、避難訓練など、様々な場面で、小学校1年生から中学校3年生などが一緒に取り組む富海小・中学校ならではの活動を行っております。

富海小・中学校には、生徒が主体的に活動する富海ボランティアグループがございます。富海ボランティアグループは、富海海岸周辺の清掃活動を行ったり、敬老会でスリッパの準備やダンスを披露したりしております。

また、地域の様々な支援団体を総称した富海っ子応援サポーターの皆さんと、九九の定着を目標とした九九道場を行っております。その他にも、蛍の幼虫の放流、防災学習、稲刈りなど、地域の方が教育活動に協力してくださっております。

さらに、生活科と総合的な学習の時間から週1時間を使って、富海小・中独自の授業科目として、全学年にグローバル・コミュニケーション科を設けております。9年間で、外国語の習熟と幅広い表現力の育成、人間関係づくりも取り組んでおります。小・中学校での英語交流の実施や、中学部でのグローバル・コミュニケーション発表会では、ふるさと富海・防府の魅力を発信する企画をつくろうと題し、観光スポットや富海の食の魅力等を英語で子どもたちが発表いたしました。

また、昨年、校内にモンロー教室も開設されました。今年度、防府市と姉妹都市のアメリカ

カ合衆国ミシガン州モンロー市から、高校生5名を迎え、全校児童生徒と交流を行い、親交を深めました。

また、交流再開を契機に中学生を派遣することになりました。2名の中学生の派遣生のうち1名は、富海小・中学校中学部の生徒でございます。来月2月10日には、モンロー市の市長も訪問される予定でございます。先日は、アメリカから若手議員の皆様が訪問され、中学校3年生と英語の授業で交流いたしました。

現在、見ていただいておりますスライドは、富海小・中学校の児童生徒が撮影し、編集した動画でございます。防府市ではセルラー方式のタブレット端末を児童生徒に貸与しております。このことにより、学校内での活用のみならず、学校外での活用においても、場所を選ばず、子どもたちが平等にタブレット端末を活用することができています。

グローバル・コミュニケーション科の児童生徒が作成したこの動画ですが、文化祭や学校説明会等で披露した際には、この動画と合わせて生徒たちが英語で富海地域や防府市内の観光名所をスピーチしております。

続いて、向島小学校です。

平成29年度から特認校制度をスタートさせた向島小学校は、令和4年度に学校を核とした地域づくりに効果を上げているとして、文部科学大臣表彰を受けました。それはきめ細やかな教育活動を行うこと及び向島小学校を核とした地域の活性化に寄与する教育活動を展開することを目指して、地域とともにある学校づくりを長年進められた成果でございます。特認校の対象児童は、防府市に在住する全学年の児童でございます。右下にいますのは、マスコットキャラクターの「さくポン」でございます。

続いて、在籍人数の推移です。青色が向島校区の児童数で、オレンジ色が特認校制度を利用した児童数です。制度を開始した平成29年度から、特認校制度を利用した児童が少しずつ増えております。本年度までの8年間に、特認校制度を利用した児童数は、延べ37名になっております。

向島小学校のシンボルである「蓬萊桜」に関する教育活動を紹介いたします。

玄関前にそびえたつ寒桜は、県指定の天然記念物であり、樹齢100年以上と言われております。子どもたちと樹木医、保存会の方との交流もあり、寒桜（百年樹）というすてきな合唱曲も歌い継がれています。それでは、令和6年11月の音楽祭での子どもたちと地域のミルキーコーラスの合唱、寒桜の一部をお聞きください。かなり長い合唱曲ですが、子どもたちは暗譜をしておりまして、歌詞もしっかり読み込んで歌ってくれておりました。

自然とのかかわりも向島小学校の特色でございます。地域の方の協力の下、タマネギ栽培を行い参観日に販売をしております。売上げは、さつまいもの苗の購入に充てられております。また、海が近い立地を生かし、地域の方の協力の下、あさりの間引き体験も行っております。

そして、地域と連携した教育活動も行っております。3世代交流では、地域の方々から、連凧やジャンボかるたの作り方を教えていただきました。また、ふれあい遠足では、地域の方とも一緒に歩きたいという子どもたちの願いを受け、保護者だけではなく、地域の方も参加していただきました。

向島には、子どもの思いを実現してくださる地域の力がございます。

以上で、向島小学校の説明を終わります。

最後に、野島小・中学校です。

豊かな自然と心温まる教育風土に恵まれた環境を生かして、児童生徒の心身の成長を図るとともに、心豊かに生きる力を培うことを目標として、平成13年度から特認校制度を開始しました。対象は、防府市在住の小学校3年生から中学校3年生までの児童生徒でございます。右下にしているのは、マスコットキャラクターの「ハモルン」です。

こちらは、在籍人数の推移です。青色が野島在住の児童生徒数、オレンジ色が特認校制度を利用した児童生徒数を示しております。平成24年度に、野島在住の生徒が卒業して以降、全員が渡船通学となっております。現在の児童生徒数は、小学生1名、中学生5名の計6名で、本年度までの24年間で特認校制度を活用した児童生徒数は、延べ196名でございます。

特色について御説明いたします。

学習活動についての取組を御覧ください。現在、少人数で授業が行われ、児童生徒は積極的に発表したり、疑問に思ったことを教員に質問したりと、意欲的に取り組んでおります。このように、個に応じた授業が展開されており、ICTを活用した授業においては、他校との交流も行っています。

地域と一体となった特色ある取組についてでございます。

野島小・中学校では、地域の自然や伝統的な活動が多くございます。地域の方との茶話会で、島に無事に帰ってきた喜びを踊り歌う盆口説きまつわのお話を聞き、子どもたちからぜひ継承したいという声が上がリ、練習が始まりました。当日は、保護者の方に御参加いただき、口説きに合わせてみんなで盆踊りを楽しみました。

海開きでは、島民の方々と安全祈願祭に参加し、その後、地域の方と一緒に親子で地域清掃に取り組みました。これら2つの取組は、毎年の恒例行事として行っています。

また、4月には、野島小・中学校と野島地域が一緒になって野島地域運動交流会を開催いたしました。最後に、野島小・中学校の夏といえば、カヤック体験がございます。講師の先生に教わりながらシーカヤックの練習を行い、最終日には野島を一周することができました。

それでは、野島小・中学校の児童生徒が作成した動画を御紹介いたします。

以上で、野島小・中学校の説明を終わります。

市内全ての小・中学校では地域と連携した取組を進めております。特認校以外の学校の中から2校を御紹介いたします。

1校目は、西浦小学校です。6年生の防災熟議の様子でございます。保護者の皆さんや地域の方とともに、通学路、避難所、ハザードマップによる地震、津波の被害、避難経路などを地図上に記しました。2年生の九九マスター教室は、地域の方に練習してきた九九を確認してもらっています。

また、山口県教育委員会が主催する「子どもが地域の先生プロジェクト」の指定校として、学校で取り組んできた成果を、1月25日土曜日に山口県セミナーパークにて行われる地域連携教育再加速フォーラムで発表する予定となっております。

2校目は、小野小学校でございます。地域の方に教えていただきながらカワラケツメイ茶を栽培し、ふれあいまつりで販売しております。また、小野リンピックでは、地域の方とともに運動会を行っております。

また、昨年は、保護者、地域、関係機関が連携した地域ぐるみの防災キャンプを行い、災

害発生時の危機管理について学びました。さらに、今年度は、地球温暖化などの気候変動に実践的に取り組む探求学習を行っております。

特認校3校について、子どもたち、地域の方、保護者の方、教職員がもっともっと行きたくなる学校にできるよう、御意見を賜りますようお願い申し上げます。ありがとうございました。

○市長 どうもありがとうございました。

今日は、もっと行きたくなる学校を目指していくということで、特認校が富海と向島と野島となっており、それぞれの特徴で、今、やっていますけれども、こういった取組について、また、西浦、小野といった小規模校についても、さらにどうしたらいいか、本当に自由な意見をいただけたらと思っております。

野島については、野島の子どもたちがいない中で、今、地域の活性化ということでやっているわけですが、そういうところをもっと元気にしていきたいと思っておりますし、富海についても、英語教育に取り組んでいて、昨年、モンローに中学生を派遣したうちの1人が富海の生徒であるということで、ますます進んでいくのかなと思っております。

もっとよくしていくという、まさに本日のテーマということで、フリーに御意見をお伺いできたらと思いますので、よろしくをお願いします。

田村委員ありますか。

○田村委員 富海は、まず英語で予想以上の効果を上げておられて素晴らしいなと思っております。成果が出ているので、これからも減ることはないのではないかなと。ある程度子どもの人数が減ってきたとしても、成功できるかなと思っております。

向島についても、地域の方の御支援があって、蓬莱桜でかなり著名になりましたので、自然を生かした活動に取り組んでいて、成果を上げていて素晴らしいなと思っております。

あと野島は、もう少し頑張ってもらいたいなと思うところがあります。茜島は大好きな島で、平成14年に私が指導主事になった頃は、まだ山々が真っ赤に染まるくらいツツジがいっぱい咲いていて、素敵なところですし、じっくり時間が過ぎていいところだと思っております。

今後、もう少し私たちにできること、大人ができることとして、古民家再生に補助ができるかとか、あとはスクールバスを運行するだとか。市内に限らず市外、または県外からでも、例えば山村留学のような感じで門戸を広げることができれば、もっともっと希望者は増えるのではないかと思います。

大規模校でかなりストレスをためている子どももおりまして、私もいくつか相談を受けておりますが、やはり心身の健康を回復させるためには、野島は絶好の学校だと思っておりますので、もう少しバックアップできるようなことを何かして、野島を活性化させたいなと思っております。

○市長 どうぞ。

○村田委員 教えていただきたいことがあるんですが、小規模特認校それぞれ特色がありますが、そういった内容、生徒の募集とかあるいは広報活動ですね、それは具体的にはどのようななっていますか。

○市長 どうぞ。

○学校教育課長 3校とも12月に申請を出していただくようになりますが、年間を通じてそれぞれの学校について御紹介を差し上げて、全てのお子さんに御紹介ができるようにしてお

ります。そして、秋に説明会を現地で行いまして、こちらの説明会に参加していただき、申請を出していただくという形になります。

各学校のホームページ等でもお知らせをしておりますし、年長さん等が対象になるところについては、幼稚園、保育園等にもビラをお配りして周知をしているところがございます。

○市長 今、特認校で野島の意見が出ましたけれども、ちょうど今回、教育長に野島の子どもたちが減っている中で、せっかく平成13年に始めて、このままにしていたら校舎も古くなるし、これをどうするのかというような話から、議論を僕のほうからお願いしたわけです。

いろいろな取組をされていますけれども、全国的に不登校の子どもたちは増えているという環境の中であって、どうしようかなど。昔、岩国のほうに山村留学をやっているところがあって、隠岐の島のほうでも高校がそういうことでやっている中で、どうかなということをおもひまして。

さっきスクールバスのお話が出たと思いますけれども、これから地域クラブを始めたら送迎のバスがいるんじゃないかと。そのバスの有効活用を図るにはどうしたらいいかということで、やるならそれだけだったらもったいないと思って。駅から送迎をすれば、もっと多くの方が利用していただけるのではないかと。また、委員のほうからありましたけれども、市外からということも当然出てくるのではないかと。野島には校舎もありますし、また公民館もありますけれども、外から見て、島の中に学校があるといったら何となくノスタルジックな感じがして。

子どもたちがまさに行きたくなる、すばらしいから行くんだということで、ちょっと課題があるから行くというのではなくて、野島がすばらしい環境だから子どもたちが行くというのがいいんじゃないかと思ったりしました。向島もそうですけれども、向島が本当にすばらしいから子どもたちが選んだという形になったら、一番理想じゃないかなと思っております。

温水委員、ありますでしょうか。

○温水委員 富海小・中学校が英語教育に力を入れていらっしゃるの分かるんですけど、それを発表する場というか、みんながこんなことができるようになったよというのを見る機会があればもっといいのかなと思いました。

例えば、富海小の子がほかの学校まで行って発表するとか、以前は、多分4年生のときに、市内で集まって発表する場があったと思うんですけど、そういったような、皆さんの前で、成果を実際に見てもらって、実際に聞けたりする場があればいいかなと思います。

あと、野島もそうですけど、なかなか船に乗って行くというのは、募集しても自分からはなかなか行けないような気がするので、例えば遠足に行ってみて、実際に子どもが野島に行ってみて楽しかったら、家に帰って何かやってみたいというふうにお家の人に話したりすると、行ってみるといふ感じになっていくのかなというふうに感じました。

○市長 夏休みに林間学校みたいな、ちょうど野島の日が8月8日なのでその前後に、今あるかどうか分かりませんが、昔のユネスコ学校のようなことをやってみて、野島に行ってみたくなるねということですかね。

また、最初のほうの英語の関係だったら、子ども文化祭とかで英語で劇をやってみるとか、そこに行ったらこんな舞台に立てるといったようなことをするとか。ここができたのでここを使ってもいいし、いろいろなところでほかの学校もいろいろ取り組んでいらっしゃるから、いろんな学校も発表する中で、野島や富海はそういうような発表するとか。富海は

ちょうど、アメリカのモンローからも市長さんも来られるし、今、富海小・中学校にモンロー学級というのを作っていますけれども、そういうようなこともよくしっかりPRしてね。

それと、先ほど村田委員からおっしゃったんですけども、どうですかね、いろいろな子どもたちがいるので、そのお医者さんのほうからこういうふうな制度があるよということをお願いしていただくとか。

○**村田委員** 不登校の相談とかでいろんな選択肢が今はありますので、特にこういった特認校をという話にはなっていないですけど、そういうものがあるということは伝えてはいます。

○**市長** ありがとうございます。

特色のある学校ということでしたらいいんじゃないかと思います。

古閑委員何かありますか。

○**古閑委員** その地域でとなると、やはり人が住むもしくは何かお仕事がそういうような何か要素がないといけないと思うんです。今、富海のお話を聞くと、英語の授業をやっている。それから、向島では蓬莱桜とかあとは農業体験をしたり。また、野島ではシーカヤックとかということもありますので、例えば富海小学校で英語を学んだ方が、将来的にそこで英語を教えることができるとか、向島小学校であれば、農業の基礎を学ぶとか、また、野島であれば漁業とか観光業のことを学んでみるとか。各々学校においていろんな特色のある経験ができる。それが、将来自分のその職業を生かして何かできるようになるのも、少しは要因になるのかなと思います。

○**市長** 野島に行って漁業の手伝いをするとか、遊びみたいな形でもいいから、向島でちょっと田んぼをやるとか、そういうことによって、インターンシップではないけど、子どものときからそういうものを体験してみる。特に漁業などはなかなか多くの子どもたちは接する機会が少ないので、遊びと兼ねて野島でやることができればいい経験にもなりますし、また漁業への興味ということにもつながっていくんじゃないかと思います。

そういう視点はあまりなかったと思うので、地域から、今、まさに地方創生と言っているので、そっちの観点からしたら、地域を盛り上げるということにもつながって、また野島の島民の方も積極的にまた関与していただけるのかなと思っています。

今、いい意見が出ましたが、実は今、地方創生で何かできないかなと、ちょっと教育で何かできればいいなと考えていて、なかなか知恵も出ないんですけども、せっかくいい意見が出ましたけれども、何か教育長ありますか。

○**教育長** そうですね。古閑委員も言われていましたが、例えば、野島とか向島は、海での活動のときに船を出していただいて、島の方がすごく協力してくださっています。

それから、近くの畑などで農業体験とかいろんなことをやらせてもらっていますが、そのまま次の職業へ向けてという辺りのところは、まだなかなか動機づけまでいっていない。けれども、学校としては特色ある学校の魅力の一つにしていると思います。

それから、富海については英語に特化してやっているの、卒業生もいろんな学校に進学をして、今回のモンローの派遣も、富海の在校生も行きましたけれども、卒業生も高校生としてモンローに行ってくれているので、すごく楽しみな部分です。

○**市長** 夏休みとかいうのは、さっき温水委員さんからおっしゃいましたが、いろんなことの経験をするとか。短期間で学校のほうは大変かもしれませんが。

○**教育長** かつて富海が夏にイングリッシュキャンプをやったときに、ものすごい多くの人が

申し込んだというのを聞いています。あれは1年か2年ぐらいでしたかね。

○学校教育課長 2年間です。

○教育長 2年間やったんですけど、またそういうのも富海ならではの取組になるのかなと思います。

○市長 各学校が、特認校に限らず特色のあることで競っていくというかね。吹奏楽も小中学校強いし、スポーツも強いし、何をやっても小中学生が頑張っています。各学校で特色のあるというか、せつかく廃校とかそんなことは考えていませんので、学校があることによって、地域が頑張るということもあるんじゃないかと思っています。いろんなところを回ってみても、大道は大道で、小野は小野でしっかり地域を守っていらっしゃるので。子どもたちの数が減っても、やっぱり学校があるということが一つ支えだと思うので、地域が元気になっていくと思います。

ちょうど野島の島民が50人という中で、今、しなければというところまできているので、しっかりと方向性を示してあげたいなと思っています。将来的に子どもたちにおじいちゃんおばあちゃんと交流してもらってもいいと思っています、そのうち本土のほうから、おじいちゃんおばあちゃんと一緒に行って、野島で何かしてもらって、元気になるというのもひとつかなというふうに思ったりもしています。

○田村委員 ちょっとお話いいですか。

○市長 はい。

○田村委員 子どもたちが野島に行っていて、突然、天候が荒れて帰られなくなったというときは、どういうふうになっていますか。

○市長 どうぞ。

○学校教育課長 野島海運の皆様が、今までの御経験で途中から荒れそうだというときは、島には行かずに向島小学校で一緒に学習をするようになっています。

○田村委員 そうなんですね。荒れそうなときは島に渡らない。

昔、時化たときに、野島の学校に行って帰ってこられなくて泊まったことがあって、泊まるところは、松本旅館というのが1軒ありまして、そこに泊めていただいて本当においしい晩ごはんを食べさせてもらいました。すごいいい思い出です。

○教育長 子どもたちも泊まった。

○田村委員 そうです。

○教育長 その時はまだ野島の子がいたから当時は島の学校だった。

○田村委員 そうですね。島の学校でした。そのときは1人ぐらい居たかな、小さな子が。島民の子だったので、そこのお子さんのお家に泊めてもらって、今は泊るところはないですね。

○学校教育課長 あるのはありますけれども、自炊になるので、突然のときの対応ができない。

○市長 活性化したらそういうものがまたできるかもしれませんし。

○村田委員 関連するんですけども、今、この島自体、かなり高齢化していていますよね。本当にそれぞれ特認校にしている意味はもちろん教育的にありますけれども、それを地域の活性化という面で考えた場合、ただ単に子どもたちが大きくなるのを待っているだけでは、ちょっと間に合わないような気がします、何かほかの部署と協力して、何かこういったことをやってみるといったことはありますか。

○市長 例えば、学校をちょっと宿泊ができるようにするとか、できるかどうかわかりませんが、先ほど申しあげましたように、本土の高齢者の方も、島に渡って向こうで何か交流できる施設もあれば、ちょっとデイサービスというか、島で将来的にできたら、そういうふうになればいいなと思っております。

今やらないと、島民がゼロになったらもうやれることがなくなるので。今ならやれば野島に元いらっしゃった方も、また戻ってみようというようなことを考えないと。学校だけではなくて。

まずは先ほど田村委員が言われましたように、今の特認校を市外とか遠くから、どこまで来られるか分かりませんが、ちょうど地域クラブで教育部長のほうからマイクロバスの要望がでていっているので、マイクロバスを購入したら、地域クラブは、学校を終わって各学校に行き、クラブが終わったときに使用するの、朝の時間と帰る時間はバスが使えるんじゃないかと。そうすると、バスの有効活用もできるし地域クラブの活性化にもなるので、そういうのもちょっとできるかなというふうに考えています。

今、いろんなことを島全体で、学校というよりも地域の中でやっていけば、また観光でも野島に行ってみようと思っただけのかもしれない。このまま何もしないと、校舎がぼろぼろになって、最後は壊すかどうかという議論があるので、その前に何かしなければいけないんじゃないかと思っています。ちょうど今、そういう意味で地方創生ということが出たので、ちょっとやりやすくなったかなと思って、意見を聞きながら、そういうことで教育長に今、話をしているわけなんですけれど。

○教育長 船の時間が決まっているので、その時間に、駅から港に連れて行って、こっちに戻ってくる時間も決まっているから。本当に不定期に学校がいつ終わるかどうかわからないわけではなくて、必ずその場所から駅までというのがあれば、今から制度を整えながら、対象を市内から県内全域にして、防府駅まで来れば何とかかなるとかですね。そういった辺りで、募集ができるかなと。

2、3年ぐらい前にNHKで野島のことを取り上げられて、野島の学校のことが放送されたときに、かなりいろんなところから、どうやったら行けるのかと問合せがあつて。そのときはまだ市内の方が対象ですよと言っていました、やはり興味のある方もいらっしゃるし、あそこなら行けるんじゃないかとか、楽しそうだなとか。そういうところを今からもっともっと発信していかないといけないと思っています。

○市長 島まで30分弱くらいで、ちょうどいい時間になるんじゃないかと思います。

さっき、時化た場合は向島小学校に行くということですが、特認校同士の連携がとれていけば、向島の子と野島の子がかなり友達になっているんじゃないかなと思いますし、向島の子どもたちが野島にも行っていいわけですね。いろんなことができるから。なかなか先例がないことですが、いいこともあると思うので。野島が始まって四半世紀くらいたちますから、そろそろ見直ししてもいいんじゃないかなと思います。

○教育長 船の中でも、子どもたち用の席がある程度取ってあります。船員の方とみんなが顔見知りになっているから声を掛けてくださって。あれを見ていると本当にうらやましいです。教員もそれに乗ってきますから、子どもたちの様子をみるのにちょうどいい、30分弱ですけど、いい時間になっています。

○市長 先生と往復一緒ですか。

- 田村委員 そうですね。釣り客も多いでしょう。
- 教育長 時期によってですね。行かれるときは朝一緒に行きますけれども、釣り客の方は昼ぐらいに帰られる。
- 田村委員 島に店がなくなりましたからね。昔は店があったのでお昼ごはんを買って食べて釣りをしていましたよね。
- 市長 活性化に何が有効かなということだと思いますね。
- 教育長 学校の中に養護教諭とかいるので、島の方が急遽何かあったときに、結構あてにされるんですよ。それは学校にとってすごくうれしいことですが、島の方は本当に高齢なので、もしなにかあったときには、学校には若い教員がいますので、その助けにもなると思います。
- 市長 野島まるごと小中学校ということですね。
今、頭の中を整理しているところですけど、それで地域の活性化をやっているということですね。向島も人が増え始めたから。向島校区の子どもが最近増えているのは、何か要因があるんですか。
- 学校教育課長 わずかではありますが、特認校制度に応募された方が、向島に住んでここから通わせたいという方がいらっしゃるようです。新築のお家は難しいのですけれど、今あるお家を借りられたり購入されたりして、向島に住まれた方もいらっしゃいました。
- 市長 幼稚園のときから引っ越すような感じ。
- 学校教育課長 いえ、特認校制度を使われて、小学校の途中から引っ越された。
- 教育長 今、グラフに出ていますけど、平成の終わり、令和の初めぐらいに、校長が、児童がすごく減ってきたときに大々的にいろんなところに募集かけたり、チラシを配ったりして、それで向島に通う子が増えました。向島小学校の運動会には幼稚園の子どもたちもいっぱい来ます。それはもちろん向島だけではないけれども、小学校と幼稚園というか保育園との連携がすごくできています。
- 市長 令和3年に15名だったのが今は31名。
- 教育長 実際このグラフを見たら向島の方が増えているのでうれしくて。
- 村田委員 向島の保育園が預けやすいんですかね。利用されている方が多い。
- 教育長 多いですよ。
- 市長 僕が市長になったときは30年だったので。この間卒業式に行ったとき、児童が倍になっていてびっくりしました。
- 教育長 学校のこういった取組もプラスになっていると思うので。
- 市長 向島は市外からでもいいのですか。
- 学校教育課長 今は市内です。
- 教育長 今の特認校制度では市内のみです。
- 市長 野島は大丈夫ですか。
- 教育長 野島も今のところ市内でしているけれども、制度を変えて。やり方は市が考えることですので。
- 市長 例えばセットでやるとかできるのですか。
- 教育長 それはできます。
- 市長 さっきの時化たときには向島ということかというと、両方セットでできる。
- 教育長 教室の数は減りますけど。

○市長 それとか、選択制で向島へ行っていたけど、野島に行ったりだとか。そういったウルトラCのような学校ができれば増えるかもしれない。新しい教育で。そうすると子どもたちがこっちが合わなかったらこっちに行くと、どっちか好きなほうへ行けるとか、子どもたちが選べるとかね、何か究極のことをしていけば面白いかなと思います。

○教育長 あと、さっき言われた発表の場ですね。温水委員が言われていましたけれども、寒桜という歌はすごくいい歌なんです。また、野島の子たちは太鼓もやるし盆踊りもある。野島の卒業生が周防大島のほうでフラダンスで活躍したこともありますので、やっぱりそういう子どもたちの活躍の場、広く知ってもらう場を、今度は意図的にちょっと考えていこうと思います。

○市長 ありがとうございます。

最後に、何かありますでしょうか。

○古閑委員 ちなみに体験というのは。

○学校教育課長 学校体験会がございます。10月から11月の間に、それぞれの学校に来ていただいて。3校とも行かれる方もまれにいらっしゃいます。

○市長 今日のタイトルで、後ろ向きのタイトルはいやだから、もっと行きたくなる学校を目指してというタイトルで事務局に聞きましたけれども、教育のまち日本一だということで、こういう特認校などをしっかりとしていくということが、防府の教育が日本一だというこというふうに感じています。

今日は、委員の皆様方からいろんな意見をいただきましたので、新年度予算では方向性を出せるような形で、ほかの地域を引っ張るような、何か新しい発想の方向性を。今回、地域クラブもありますけれども、それについてもしっかりとの方針を、子どもたちに安心の材料が足りないといけませんので、来月の予算発表のときに、今後、このようにやっていくんだということ、しっかりと示したいと思っております。

それから、もっと行きたくなる学校を目指してということで、本日の意見を参考にさせていただきながら、特認校というか防府の教育について、しっかりと進めていきたいと思えます。

教育長、何かありますか。

○教育長 今、言われたようにしっかりと進めていこうと思います。先ほどから言われるとおり、しっかりPRをして広く知らせていきながら、校長会では当然話していますが、保護者であったり地域の方であったり、市民の方にしっかりと理解していただけるように努力していきたいと思えます。

以上です。

○市長 それでは、事務局にお返しいたします。

○教育部長 皆様、本日は貴重な御意見をいただき、ありがとうございました。

以上で、令和6年度防府市総合教育会議を終了いたします。本日はありがとうございました。